

快居の会受付 TEL FAX 06-6946-6161

〒 540-0036

大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエVOID内

快居の会

だより

19号記事～高槻S邸特集～

- お気に入りの2階リビングで暮らしたい
- 安全な生活環境は人を元気にする
- Sさん宅の住居改善～図面と写真～
- Sさんからのコメント

お気に入りの2階リビングで暮らしたい

一級建築士 鈴木章仁

■ 改造を決めるまで

Sさんは工作中に体育館の屋根から転落され全身に大けがをされました。リハビリの結果、何とか松葉杖や手摺つたいに歩行ができるまで回復されましたが、全身に痛みが残っています（強い痛み止めを服用されているようです）。長時間座位姿勢を保つのが困難な状態で、設計の打合せに伺った時には、座っているのは調子がいい時で1時間程度といったところで、普段はソファーに横になって過ごしておられます。

2階は広いLDKと和室とトイレ、1階は3室の個室とお風呂、洗面、トイレというプランで、普段は2階のリビングで過ごされて、2階の和室にベッドを置いて寝室とされています。

お風呂や外出で階を移動する必要がある時には、当時同居されていた息子さんに、おぶってもらおうという、非常に危険な生活を2年以上続けられ、その生活の限界を感じておられました。

退院当時は、バリアフリーのマンションへの転居やキッチンを1階に作って主な生活の場所を1階に移す案なども検討されていましたが、最終的にはSさんが新築時にプランニングにも積極的に

参加されとても気に入っていた今までの生活を選択されたのでした。

■ 主な改造

上下階の移動手段として階段昇降機の利用は、転落の記憶による恐怖心から無理ということでしたので、エレベーターの設置で事故以前とかわらない家族の安全快適な生活を取り戻し、ご本人の快適な生活や行動範囲の拡大に加えて、ご家族の安全や介護負担の軽減もはかっていくことにしました。

トイレの立上りぎりを助けるために、今ある手摺の訂正と追加、トイレの扉を閉じ込め防止や楽に開閉できるよう、2階は折れ戸への取り換え、1階は開き勝手の変更をしました。詳細内容につきましては、作業療法士さんと連携して症状の聞き取りや現場での動作シミュレーションにより決定しました。

入浴に関してもより安全なものにしたいと検討しましたが、現在は何とか入浴できるということで今回は見送りました。

安全な生活環境は人を元気にする

作業療法士 山下協子

初めてお会いしたのは、後1ヶ月でリハビリ終了予定という時でした。全身に及ぶ多発骨折に伴う痛みは、持続疼痛管理下でも痛みがあり、日々の体調の変化に大きく影響していました。当日は、松葉杖1本と手すりでも何とか歩いておられますが、痛みが強い日は無理と言う状況でした。当時最大の課題は、1～2階の行き来でした。安全のため、1階だけで生活する事に納得されなかったのですが、それは特別な事ではなく、例えば「独立した長男家族の話声を聞きながら、独り階下の寝室でお土産を食べている」などと言う光景は、誰も想像したくないものです。1～2階を行き

来しながら生活するとなると、階段昇降機・段差解消機・エレベーターの選択になりますが、ご本人が恐怖心を抱くことなく利用できるものとしてはエレベーターしかないという結論になりました。また外出の際のカマチの上がり降りは妻の介助では負担が大きすぎ、できれば屋外と1、2階停止で、車いすのまま行き来できるエレベーターが望ましいと考えました。大きな経済的負担をおかけする事にはなつたのですが、最終的には最も安心な解決策になりました。

優先度2番目は、戸を開けたままでしか使えない、また立てなくなることもある2階のトイレで

す。1階のトイレは一応使えていたのですが、神経因性の排泄障がい、尿意を感じてから排泄までの時間的余裕が少なく、2階のトイレも確実に使えるようにする必要がありました。人々が集う生活を取り戻していただくには、トイレの戸を閉めて使用できること、緊急時には救出できること、便座の立ち座りを確実に可能にすること、トイレ周辺からトイレ内での動きをスムーズにし、着座までの時間短縮と転倒のリスクを軽減する事を考えました。便座の立ち座りは縦手すりの位置を変更する事で、扉は吊り元を便器側にした折れ戸へ

変更とすることで解決できました。扉の開閉のための補助手すりも入口内外に各1本増設しました。1階はトイレの扉を外開きに変更しただけで、洗面所と浴室の改善は今回は見送りました。工事完了時の確認からおよそ1年後にお会いする機会を得ましたが、相談時に感じた、緊張感はすっかり消え、明るく穏やかに、また楽しそうにご家族との事や外出の話がされる様子に、障がいを抱えながらではありますが、ご自分の生活を取り戻されつつあると感じました。また、あらためて環境整備の大切さを確認しました。



改修前後の外観

エレベーター増築部分

Sさん宅の住居改善～図面と写真～

事例概要

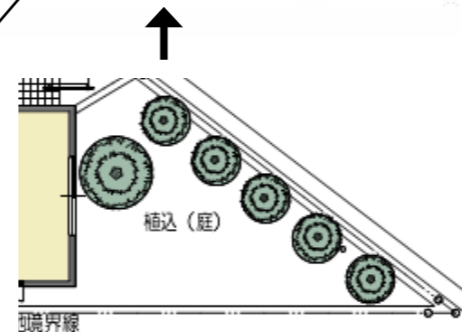
改造時期	2012年12月～2013年2月
工事費用	632万円(補助金計138.9万円含)
住宅形式	木造(2×4)3階建て、自己所有
築年数	25年
対象者	Sさん(男性、57歳-相談当時-)
身体状況	多発骨折(骨盤、腰椎、下肢、下顎粉碎骨折など)
家族構成	本人、奥様の二人暮らし
利用制度	1. ケア連携補助額 58.9万円 2. 住宅改造助成事業 80万円



1階平面図



植込みを撤去しエレベーターを設置
(一人での外出も可能になった)



1階エレベーター周りの現況



2階トイレのドアを釣り元を変えた折れ戸に変更



2階トイレの既存手摺りが体に近すぎたので、距離を確保した位置に付け替えることで立ち上がりやすくなった



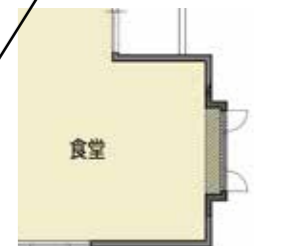
2階平面図



車いすを常設し乗降する



食堂の出窓位置にエレベーター出入口を設置



2階食堂の現況

Sさんからのコメント

6年前、工作中的転落事故から私の生活は一変しました。大学の体育館の屋上から地下2階のコンクリートの床へ頭から転落、下顎から両肩、両腕、左肘、肋骨、骨盤、股関節、大腿骨、両足首、両かかと、ありとあらゆる箇所を骨折し体中がチタンで補強され、本当に生きているのが不思議なくらいです。10日の間生死を彷徨い、7度の大手術は毎回長時間に及び、そのたびに家族は朝から夜中まで病院に待機してくれていました。入院生活は11ヶ月間続き、一日も欠かすことなく、痛み

と戦う私を毎日午前午後と妻や子どもたちが付き添い、元気づけ、励まし続けてくれました。家族は仕事や学業などこれまでの生活の上で病院を往復しての介助、体力的にも限界ではないかと思いつつ続けている中やっと退院が決まり、一時帰宅をすることができました。が…私の考えの甘さに衝撃が走りました。この体との戦いはこれからだったのです。

私の家は木造戸建て、お風呂は1階、リビングとダイニング、介護ベッドは2階、車いすを使っ

てできる限り自分の力で移動したいと頑張りましたが1階と2階の移動はどうしてもできませんでした。そこで、階をまたぐときは身長178cm、体重85kgの私を息子がおんぶして移動してくれました。リハビリや通院がある日は息子が仕事に出る前に私を1階におろしてくれ、昼食は妻が2階から1階に運んでくれる。そして息子が仕事から帰ると2階までおぶってくれる。とても危険な状態でも家族は懸命に私を支えてくれました。そんな日々を過ごす中、大柄な私を日に何度もおぶっ

てくれていた息子の足に負担がかかりすぎ剥離骨折をしてしまいました。妻は役所に行き現状を相談したところ1階部分の改造を提案されました。けれど家族みんなで過ごす時間を大切にしたいため、リビング・ダイニングのある2階へのこだわりを消すことができませんでした。1階と2階を行き来しての生活をするとなるとエレベーターが必然でした。

そこで妻は何度も何度も役所に通い、どうにかエレベーターを設置できないか相談していました。

子どもたちの負担が少しでも軽くなるように、また以前のように私と二人で出掛けられるようにと。

しかし、車いすが入るエレベーターとなるとどれも高額でなかなか手が出せませんでした。そんな時、役所の方から「快居の会」を紹介していただいたのです。さっそく連絡をしたところ、馬場先生と鈴木先生がすぐに自宅まで駆けつけてくださいました。今の私の状態や家族の状況、これからどんなふうに改善していきたいかなどとても親身に相談にのっていただきました。エレベーター設置の方向に話が進みかけては止まり、やはり高額であることから断念しかけたこともありました。それでも、「お父さんがこれからももっと楽しく暮らせるように」「ずっと家の中で終わらずに自分で外の世界にでられるように」と家族の後押しがあり、エレベーター設置に踏み切ることができました。設置に至るまで約3年の月日が過ぎていました。

設置されたエレベーターはG階→1階→2階とつながり、出入り口が2方向、外につながるG階の入り口には全自動のシャッターが取り付けられ安全面にとっても配慮していただきました。とてもステキな作りで、まるで最初から設計されていたように我が家になじんでいます。

事務局からのお知らせ

寄付金に対する税制優遇などの特典がある「認定 NPO 法人」になりました。

下記ホームページにもアクセスして下さい。福医建研究会、快居の会の紹介をしています。

URL : <http://fuku-i-ken.net/>

福祉・医療領域と連携した私たちの仕事

- 住居改善相談、アドバイス、設計、監理
- 住宅の計画、設計、監理
- 集合住宅、住施設、高齢者・障害者に配慮した各種建築の計画、設計、監理
- その他の建築、まちづくりに関するのアドバイス、調査、計画、設計、監理

〒540-0036

大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエV O I D 気付

認定 NPO 法人 福祉医療建築の連携による住居改善研究会 住居改善実践事業部 快居の会

快居の会相談スタッフ

< 建築 >

明石 友宏 (双葉都市設計工房)

小倉 勝彦 (アトリエV O I D)

佐藤 和子 (佐藤建築事務所)

中村 英人 (中村英人建築設計事務所)

馬場 健一 (馬場健一建築研究所)

森 隆 (アトリエフォレスト)

今井 俊夫 (今井環境建築事務所)

川上 昌宏 (川上建築設計工房)

鈴木 章仁 (鈴木章仁建築デザイン事務所)

野田 和子 (space create)

馬場 昌子 (快居の会一級建築士事務所)

上田 猛 (上田猛建築事務所)

北 聖志 (THNK 一級建築士事務所)

相馬 智香江 (アドテック建築事務所)

萩野 隆司 (萩野設計工房)

松村 優 (創造福祉空間研究所)

< セラピスト >

逢坂 伸子 (大東市)

長辻 永喜 (藍野大学)

細本 愛子 (千里津雲台訪問看護ステーション)

小林 貴代 (作業療法士)

林元 光広 (訪問看護ステーションはやしも)

山下 協子 (作業療法士)

新 雅子 (精神保健福祉士)

藤原 太郎 (作業療法士)

山田 隆人 (大阪保健医療大学)

今では通院やリハビリに行くことも楽しくなり、帰宅時にシャッターを開ける様子はまるで秘密基地に帰ってきたようにわくわくしています。宅配便が来たときなど、エレベーターを使って一人で荷物を受け取りに行くことができるようになり、階段をまたぐ移動も一人でできるようになり、自分のペースを大切に一日の時間を使うことができるようになりました。何より一番は、家族への身体的な負担を少しでも減らすことができたことに喜びを感じます。これからは妻との時間も大切に、気候のいい季節には散歩したり、イベントに出掛けたりたくさんデートがしたいと思います。

転落事故からできないことだらけだった私ですが、エレベーターの設置のおかげで出来ることが増え、これからもっと可能性が広がるような気さえしています！

3年もの長い間、何度も自宅まで足を運び相談にのっていただいた馬場先生、鈴木先生をはじめ、関わっていただいた方々に本当に感謝しています。自分の意思で行きたいところに行ける、かばわれるだけでなく自分から関わっていける環境の大切さこれからも忘れずに頑張っていきたいと思えます。

本当にありがとうございました !!!!!!!